

医療従事者の方々に、
深く敬意と感謝を表
します。

この度、本堂賽銭
(159,372円)と西蓮
寺より(150,000円)併
せて309,372円を『日
本赤十字社医療セン
ター』へ寄付しまし
た。

現在は
過去の集積である
未来の人生は
今積み重ねつつある

今月の言葉

はずいけ

お知らせ

今年の念仏奉仕団を中止します。

誠に残念ですが、10月8～10日に延期しまし
た、西本願寺念仏奉仕団の旅を中止いたします。

新型コロナ肺炎の終息が見込めず、団体バス旅行
の実施は困難であると判断いたしました。来年以降、
計画したいと思っておりますので、その時にはぜひご参加
下さい。

浄土真宗本願寺派 西蓮寺
藤岡市藤岡一六二五
寺報 第四十九号
発行 令和二年七月五日(日)

お寺の行事を再開します。

本山より、法事・法要を行う時の感染予防
ガイドラインが示されました。それにのっとり、
法座を再開します。

三密を避けるため、本堂での参拝人数を20
人程度として、それ以上の場合は庫裏にて映像
配信を行い、分散してお参りいただきます。

皆様には、マスクの着用をお願いします。

今月の予定

- 7月10日(金) 15:00 第3回聖典セミナー、『阿弥陀経』を読む
- 7月11日(土) 10:00 はずいけ廟法要
- 7月22日(水) 13:30 ほのぼの法話会 蓮照寺 松岡満優師
- 7月23日(木)～26日(日) 住職、築地本願寺にて常例法座出講



今、境内の蓮が咲いています。

境内にある『眞実信心』

(『はすいけ』アーカイブ 第二号 平成九年から)

平成二年十一月十九日、掃部かもんかすお一雄さんは境内に一つの碑を建てられました。表には「眞実信心」、裏には「愚の自覚」という文字が刻まれています。この碑は親鸞しんらん聖人の直筆をそのまま刻んだものです。掃部さんがこの碑に込められた思い、親鸞聖人の言葉と掃部さんとの出会いについてインタビューしました。

一、眞実信心しんじつしんじん

お宅の床の間の上には、碑の文字の原本となった「眞実信心」と書かれた額が掲げてありました。

「これはお寺さんの旅行で高田の専修寺せんじゆじにお参りしたときに出会ったもんでね。この字はゆがんでて決してうまくないんだけど、何というか、人を包み込むというか、抱え込むというか・・・それでもって、おとなしくって芯がある。毎日毎日、ずっとこの字を見てきたんだよ。ただ、ただ好きなんだなあ、この字が。でも、読んで、何故この字にこんなひかれるのか、何故この言葉がこんなに人を惹きつけるのか、分からなかったんだ、ずうっ」と後になるまで・・・」

二、愚の自覚

この字との出会いから、何年かたったある日、掃部さんは築地本願寺で、ある布教使さんのお話を聞かれました。「話の内容はよく覚えていなんだが、とにかく『愚の自覚』って話だったなあ。それまで、報恩講や永代経とかで『南無阿弥陀仏で救われる』って何回聞いてても、布教使さんはあんなこといってるけどホントかなあ、本当に救われるんかなあ、と後から後から反抗的な気持ちがあわいてくるんだなあ。『極楽浄土』に行つて来た人があるわけじゃあねえし、どうもうなづけないと思つて聞いてたんだなあ。見えないことや証拠のないものなんかには、心の扉を閉めて、外へ押し出しちゃう。



でもね、『愚の自覚』という話を聞いたとき、自分の愚かさをガン！といわれた時に、頭の脳芯を打たれたような気がしてね。自分の私の強さに気づかされ、その我に閉じこもった自分の考えなんて本当に愚かな考えでしかない、気づかされたんだなあ。偉大な哲学者であり、宗教家である親鸞聖人の言っていることを分かったって無理な話だし、とうていできない。そういう教えの前でれば、自分の考えなんて芥子粒みたいなもんだなあ。

自分の愚かさに気づいてからは、その我が崩れたというか、平らな、素直な気持ちでお説教が聞けるようになったね。なのであの時、あの話があんなによかったのかなあ。築地の雰囲気よかったのか、布教使さんの話がうまかったのか・・・」

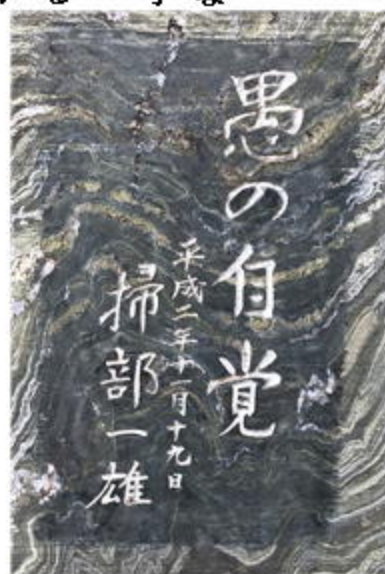
三、いだかられておるともしらずおろかにも われ反抗すおおいなるみ手に 九条武子

「信心は真実でなくっちゃなんねえ。疑いながら聞くのは信心でないだからね。そのまま、真で実なものが信心なんだから。自分の気持ち素直になって手を合わせると、同じ法話でもすうっーと素直に入ってくるんだなあ。真実の信心を得るには受け入れる側が自分の我を取り払って素直じゃなくちゃなんねえ。こうして、素直になれた時、あの字に惹かれ続けたのが何故だったのか分かったんだよ。『真実信心』と『愚の自覚』ってえのは表と裏で一つなんだってね。九条武子さんのこの歌にもあるように、愚かにも反抗してるんだよね。だから、阿弥陀様の大きな手に抱かれていることが、なかなか感じ取れねえんだ。ふつう、抱かれるってえのは、人間に抱かれるのは分かるけど、阿弥陀様に抱かれるってえのは、体で感じとれねえからなかなか分からねえってもんだだけだね。」

四、自分の死について

「こればかりは、初めて体験するものだからねえ。亡くなるってことより、病みながら生きていくことの方が大変だし、周りも大変だと思いと不安かなあ・・・。息子に死なれたせいも、もう何の未練もないから楽な気持ちで死んでいけると思うけど、これで命つきるって時に泰然自若たいぜんじじやくでいられ、ベッドの中で南無阿弥陀仏と称えられる心境になればいいとは思っているけど、やっぱり亡くなっていくってえのは、勇気が

いるんだろうかねえ。でも、亡くなっていくときに真っ暗なところでない、気持ちの明るいところへいけば・・・、たとえば、明るくにぎやかできれいなとこへいけるんだと思えばいいなあ。いやだやだとしようがなしにいくのではなく、たとももしれない。信心があれば、そういう気持ちになれるんじゃないかと思ってるよ。こんな話を聞いたことがある。



暗闇で寂しい駅に、夜汽車で着いた。これから先泊まる宿が決まっていなくて不安でいっぱいになる。でも泊まり宿が決まっていれば、明るい気持ちでトコトコとその道を歩いていけばいい。これが信心のあるものと無いものとの違いじゃあないのかな。信心とはそういうもんじゃあないのかなー。

今、自分のことを言えば、自分の愚かさを知って、素直に法話を聞けるようになってからは、その道が昔よりずいぶん広がっていい道になってきた気がしているよ。少し広くなったその道が、もっとはっきり見えてくればいいなあって思ってるよ。これから先、いつ死んでもいいと思えるようになるように、法話を聞いていきてえなあ。するともっと安泰していけるんじゃないかなー。まだまだ、そういう気持ちになるには、ほど遠い道のりだがね。」

*インタビューを終えて

この碑には、掃部さんが「真実信心」に出会われた喜びが込められています。

この喜びを多くの人に伝えずにはいられないとの思いが、碑の建立につながりました。この碑は、本堂の正面右手に建てられています。本堂にお参りする方なら必ず目に止まるところにあります。参拝する方の心にしっかりと「真実信心」の四文字が刻まれることでしよう。力強い親鸞聖人のお筆を通して、仏さまのお心が、直に伝わってくるようであります。

(付記) その後掃部一雄さんは、平成十一年五月十三日に往生されました。享年八十八歳



「この頃思うこと」 A・Oさんより

一人暮らししていると、一日中話さないこともあります。でも、朝夕、阿弥陀様に正信偈をあげる時、声の出方でその日の調子が分かります。最初に、仏壇の阿弥陀様を見上げ眼を見ます。大きな眼で、しっかり見つめて下さっている時、又眼をつむって祈るようなお顔の時……。どうしてだろう？この頃思うこと。それは、私の心の中を全て見通していらっしゃるのだと思うようになってきました。良いことや嬉しいこと、楽しいことがあったり、心配ごとがあったり、悲しいとき、淋しいとき『心配するなよ、一人にしない』と、一緒に眼をつむって祈って下さるように思えます。今まで、お聴聞させていたくださほんのちよっぴり分かっていたのかな……。この頃、母の姿を思い出します。『ナマンドープ、ナマンドープ』と口ずさんでいる母を……。

かんむりようじゆきよう
『観無量寿経』の世界を描いてみませんか。(ぬり絵)
たいままだら
當麻曼陀羅 (奈良當麻寺)

「コロナ禍で外に出られずにいたが、本堂にあった写経をして心が落ちつききました。」というお声をいただきました。「仏画」を描いてみたいという問い合わせもあったので、いろいろと探してみました。

4月からラジオ第2放送(第2日曜日午前8:30~9:00)「宗教の時間」で釈徹宗先生しやくてつしゆうが『観無量寿経をひらく』というテーマで、お話し下さっています。

親子関係に悩む韋提希いだいきが、釈尊の教えを聞いて救われていくという内容を図に表したのが、奈良の當麻寺蔵の曼陀羅ちゆうじゆうのめです。中将姫が蓮の茎からとられる細い繊維で織ったといわれる緻密な図です。お浄土の様子が、描かれています。釈先生のお話を聞き、より理解を深めるために曼陀羅図に色えんぴつで色を塗ってみようと思います。お家で彩色なさりたい方には、お寺に用意がありますので、お声かけ下さい。遠方の方へは、お送りします。お子様、お孫様にもどうぞ。一部300円。(坊守記)

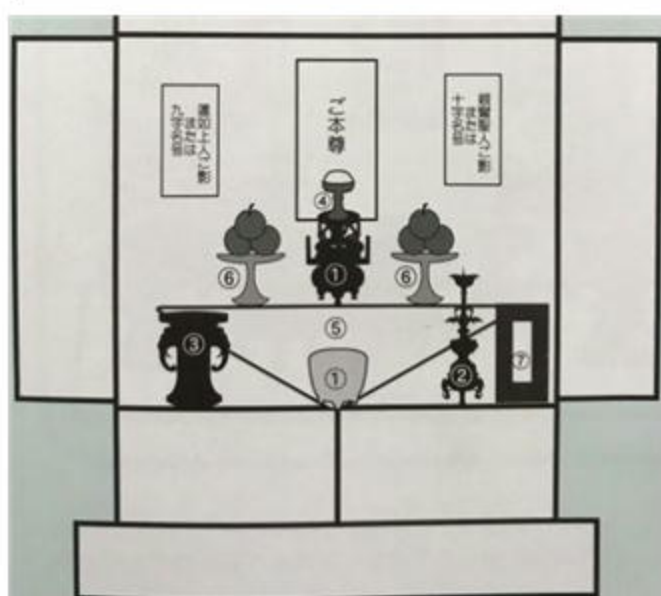


浄土真宗のお盆の迎え方

一部の風習では、精霊棚しょうりょうだな（盆棚）を作って、お膳を用意するところがあるようですが、浄土真宗ではそういったことはいたしません。精霊棚というのは、先祖の霊を迎えてもてなすため用意する棚で、位牌を並べ、その前に精進料理のお膳や迎え団子、その他盛りだくさんの果物、野菜を供えるものです。また、ナスとキュウリにおがらをさして、牛と馬に見立てます。これらは先祖の霊が乗るための乗物だそうです。

そもそもお盆とは、仏弟子の目連尊者が餓鬼道に堕ちた亡き母しゆそを救おうとして、その母に食物を与えるのですが救われず、お釈迦さまの導きで衆僧に供養して初めて救われたという故事から起こった行事です。すなわち、亡き母や特定の先祖に供物を捧げるというのではなく、自らが深く仏法ぶつぽうに帰依して、限りなき仏さまのはたらきを仰いでいくということでしょう。

ですから、精霊棚しょうりょうだなを設けるのではなく、ご本尊の阿弥陀さまを心から仰ぎ、お供え等ともがらをしてください。
 （西本願寺ホームページより）



- ①金香炉かなごろう ①土香炉どごろう（お線香をお供えします）
 ②ろうそく立て
 ③花瓶ぶつばん ④仏飯



- ⑤打ち敷うちしき
 ←
 ⑥高坏たかつき（お菓子や果物かごちようをお供えします）
 ⑦過去帳

今年のお盆のお参り

- ◎8月13日 新町、市内新盆
- ◎8月14日 1丁目、2丁目、3丁目、4丁目、天川町、栄町、相生町、旭町、上戸塚、下戸塚、小林、川除
- ◎8月15日 大戸町、芦田町、本郷、山崎、篠塚、森、森新田、中、岡之郷、立石、三本木、高山、南町、中島
- ◎8月16日 鬼石

★お盆のお参りをお休みされる場合は、早めにご連絡下さい。

新型コロナウイルスの影響で、変更になる場合があります。